

# 2023年度 メリー★ポピンズ朝霞台ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

## 1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力」を育てるために、日々の日課を基本とし、子ども達の様々なことに挑戦する力を伸ばせるように日々の保育、行事の計画、環境設定などに力を入れて取り組んできた。特に、保育者の関わりにおいて、安全を保ちながら見守ることを徹底してきた。保育者が先に手を出してしまい、子どもの挑戦する機会を奪ってしまうことのないように配慮してきた。その中で、子どもの気持ちに寄り添って、手を出す前に子どもの意志を尊重することや必ず言葉を掛けることなど、丁寧に関わることも大切にしてきた。また、接遇面においては、全職員一丸となって組織的に取り組んできた。その結果、職員間の情報共有の徹底、相手の立場に立った対応の実施をすることで利用者アンケート結果のNPSスコア向上に繋がった。引き続き、子どもの最前の利益を守るための接遇を常に考え、子どもを真ん中に保育を実施していく。

### 〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもにとって必要な体験を常に考えて実践していく。
	実践結果	こどもの姿に合わせて、学年を分けたり、異年齢で実施したりと、体験に合わせて柔軟に対応してきた。保育者も臨機応変に配置を変えて、必要な体験を必要な時期に行えるように環境も整えて実施した。
	次年度方向性	「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」をもっと深める必要があった。目の前の子どもの姿がどの力の基盤となっているのかをよく理解する。
2	計画・ねらい	異年齢の良さを存分に引き出した保育、生活の実践をする。
	実践結果	混ざる、真似る、意欲に繋げることを踏まえ、異年齢保育を実践してきた。「やってみたい」という気持ちを、子どもの挑戦と捉えて見守った。
	次年度方向性	引き続き、子どもの姿を前向きに捉え、異年齢保育を実施していく。
3	計画・ねらい	日課の意義を職員一人ひとりが理解し、内容を充実させて保育に活かしていく。
	実践結果	日課を保護者にも見せることで、意義の理解や保護者理解にもつながったと感じる。懇談会での動画上映と成長を伝える会での日課の披露も実施することができた。
	次年度方向性	日課を基本に、保育の中で法人の掲げる6つの力の育成に取り組み、子ども達の成長を前向きな視点で見守っていく。

## 〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの発達の様子を保護者に細やかに共有、発信して育ちを共に喜び合える関係性を構築する。
	実践結果	園接遇の向上を意識し、保護者への対応を常に考えた。情報共有の徹底を図り、連絡帳の記載内容と登降園時の伝達事項を職員間で把握に努めた。また、全家庭、個別面談の実施を行ったことで、子どもの成長を保護者と共有し、悩みを聞く機会とすることができた。
	次年度方向性	今年度の個別面談は保育者にとっても、家庭での様子を把握することができ、とても有意義なものとなったと実感している。次年度も面談の実施と保育参加への呼びかけを実施し、共に子育てをする姿勢を大切にしてい
2	計画・ねらい	保護者一人ひとりが思いをもって園を選ばれたということを常に自覚し、子どもと保護者にとって最善のサービスを日々追求する。
	実践結果	テラスの修繕が入り、外観を整えることができた。園内においては、整理整頓と日常の清掃を見直し、取り組んできた。保護者や地域の方の目線を意識することで清掃や保育の改善につながった。
	次年度方向性	整理整頓は保育においても、子どもが育つ場所としても重要であると捉え、環境整備に取り組む。また、保護者の立場に立った対応を常に考え、園接遇のさらなる向上に力を入れていく。
3	計画・ねらい	自園の保育を職員一人ひとりが自分の言葉で保護者に説明することができ、保育内容の共有や理解を深める。
	実践結果	全家庭の個別面談の実施で保育者が子どもの育ちと保育について保護者と共有する機会が持てた。懇談会やポートフォリオ等で担任一人ひとりが自分の言葉で伝えることで、保育内容の共有と理解にもつなげていった。
	次年度方向性	個別面談においては次年度も計画的に実施していき、子どもを真ん中に保護者と共に子育てをしていく。

## 〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	自園を利用される保護者を含め、地域の保護者が求めるニーズを理解し、園で応えられる最善の支援を行う。
	実践結果	朝霞エリアは保育園が多く、保護者に選ばれる園となるために園の特色を強調して伝えるように意識した。また、朝のスムーズなお見送りやお迎え時の3分間対応、持ち物も最小限なことなども保護者目線でお伝えした。
	次年度方向性	どろんこ祭りやちきんえっぐを園見学に来られた地域の方に呼びかけ、地域のニーズの理解に努めていく。保護者を含めた地域の方に実際の保育の様子を見てもらおう機会を設けていく。
2	計画・ねらい	自園での取り組みや成果を地域に向けて発信し続け、より多くの方に園を知ってもらう。
	実践結果	青空保育では、リピーターの参加者もできたが参加者は少ないので引き続き、園見学の方や保護者に呼びかけていく。Instagramでの発信を年間通して行うことはできた。散歩時に地域の方への挨拶をしていることから、地域の方からもよく声を掛けていただけたことが増えた。

	次年度方向性	Instagramでの発信はできたので、次年度も投稿できる職員を増やし、発信回数を増やしていく。散歩時の挨拶は、保育者の基本姿勢なので、引き続き、気持ちの良い挨拶で地域の方から親しみやすい園となるようにする。
3	計画・ねらい	地域の保護者同士をつなぐ役割を果たす。
	実践結果	ちきんえっぐ参加者には、次回の予定を伝え、どろんこ祭りなどにも招待した。どろんこ祭りには地域の方が多く参加された。卒園児や地域の方、保護者で交流をとっている様子もあった。
	次年度方向性	飲食がある行事に関しては地域の方も興味を持たれるので、自然食堂やどろんこ祭りにきた地域の方に予定表を配るようにする。各イベントの内容を地域の方目線で計画していく。

#### 〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力を向上させる。
	実践結果	子どもの姿や成長に合わせて、散歩の行先や表現遊び、体験活動の内容を計画し実施してきた。昼礼や園会議などで子どもの姿を共有し、必要な経験ができるように保育者間で意見を出し、耳を傾け、全員で子どもの育ちを見守る姿勢を大切にしてきた。情報共有の徹底に取り組む中で、職員間のコミュニケーションも増えた。
	次年度方向性	職員間のコミュニケーションがとれ、情報共有の徹底が進む中で、互いの良さに気付き、活かせるようにしていく。また、自身で考え、学び、実践する職員育成に取り組んでいく。
2	計画・ねらい	一人ひとりがプロフェッショナルとして考えて行動する。専門性を活かした保育の継続を目指す。
	実践結果	園会議や園内研修においては自分の言葉で意見をすることを意識し、全職員の言葉を引き出すように実施した。園接遇向上に向けた取り組みや情報共有の徹底においては、コンピテンシーを活用し毎月の計画と実践、振り返りを行い、着実に前進を重ねてきた。また、危機管理係、内部監査係を中心に自園の傾向を分析し、日々の保育に活かしてきた。 園内研修では職員が研修で学んだことを、自園で研修発表し、学びから教育、そして自身の理解を深めることができるよう機会を設けることができた。
	次年度方向性	職員講師による研修は、学び、考え、自律することに繋がる為、次年度も研修の機会を設けていく。日々の保育の中で子どもの姿や発達を共有、理解することで、保育の内容の充実と子ども達が自分で選択できる環境を整えていく。引き続き、保育のプロフェッショナルを目指し、丁寧な保育を一人ひとりが考え、実践していく。
3	計画・ねらい	自身の育成計画を自身でたて、仕事に対するやりがい、モチベーションを向上させる。ずっと続けていきたいと思える仕事にする
	実践結果	目標設定において、組織目標と個人目標を施設長、主任と共に設定した。組織目標は分野ごとに分けたが、それぞれが全て絡み合うような目標設定

		を心掛けた。組織的に動いていくことで、全員の目標が同じ方向に向き、やりがいを感じられるように配慮した。結果として園の利用者アンケートの数値は向上することができた。全職員で成果を実感し、更なる向上を目指すことで、モチベーションの向上にもつながったと感じる。目標設定をすることで、職員間のコミュニケーションが増え、チーム力も増した。一つの成果を出したことで、他の目標への意欲が薄れてしまう為、定期に進捗確認をし、モチベーションの継続をしていく必要がある。
	次年度方向性	スタッフの主体性を伸ばし、自分で考え、学び、行動し、評価する体勢を作っていく。目標管理を自身の成長するための手段と捉え、前向きに取り組めるよう施設長、主任、リーダースタッフで定期的振り返りと進捗確認をしていく。

## 〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食育や環境にまつわる活動を通じて給食残渣の削減を目指す。
	実践結果	野菜の下処理や畑仕事を通して、食に関する興味を広げてきた。また、法人の基本方針に則り、戸外活動を十分に行うことで空腹感を感じ食欲に繋がっている。給食残渣量においては平均して減少傾向だが、感染症流行時期や雨天で室内活動になり運動量が減る時期、メニューによってはまだばらつきがある状況。引き続き、子どもの食について考え、子どもの食欲を伸ばしていけるよう努める。
	次年度方向性	調理、保育士が共に子どもの食事環境や食欲について考え、給食残渣の削減に努める。子どもの興味関心から食に関わる活動を取り入れ、食の大切さや命をいただくことに触れ、美味しく食すことを伝えていく。可食部以外の食材の活用を保育と連動させ、実施する。
2	計画・ねらい	年々変化していく環境に対応した保育の展開を目指す。
	実践結果	テラスにてゴーヤを育て、緑のカーテンを作成した。毎日の散歩では、活動開始前のゴミ拾いを実施し、子ども達が育つ環境を意識し、保育を実施。
	次年度方向性	戸外活動時のゴミ拾いを実施し、環境保全に努める。水の使用量やペーパータオル等の消耗品の必要量を把握し、保育者が背中を見せながら、子ども達へ物を大切にすることを伝えていく。

## 〈6〉「見守る保育」を実現する環境作り

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの発達を理解し、専門性をもって子どもに関わる。
	実践結果	担任間でのクラス会議を定期的に行い、園会議での全体共有を実施した。子どもの姿を日常の中でも共有できるよう、昼礼での共有、ヒヤリハットの活用、家庭からの様子をこまめに確認するなど意識して取り組んだ。子どもの発達について気になる姿が見られた時は、前向きな視点で子どもを見つめ、保育者の関わり方を試行錯誤していった。ポートフォリオを活用し

		たが、発達面における記録が弱い為、引き続き、子どものどの部分が育っているのかを意識し取り組んでいく。
	次年度方向性	子どもの発達を理解し、子どもが自らやってみたいと思う体験活動と物的環境を整える。子どもの挑戦しようとする姿を成長と捉え、子どもの育ちを見守り、適切な援助をしていく。
2	計画・ねらい	子どもが自分で選択し、子ども同士の関わりがしっかり保障された保育の実践を行う。
	実践結果	活動や子どもの成長に合わせて、室内の環境を都度見直してきた。食事、遊び、睡眠のゾーン設定は安定してきたが、コーナーの設置については子どもの姿によって変化する為、職員で話し合い、改善を重ねている。スタッフ配置においては、目の数キープを意識し、見失い等がないようにヒヤリハットの抽出と共有、スタッフ間の言葉かけによる連携を取り、子どもの関わりを見守った。
	次年度方向性	人的環境である保育者の関わりを常に考える。子どもにとって心地の良いかわり方や自主性を促す関わり方について日々、話し合い実践する。定期的にチェックリストを活用し、子どもの人権を尊重し、誰が見ても気持ちの良い保育を目指す。
3	計画・ねらい	保育者自身が環境としての役割を把握し、適切な関わり方を実践する。
	実践結果	日々の子どもの姿の共有や園内研修等を通して、ありのままの子どもの姿を認め、プラスの視点で子どもを捉えるように実践してきた。子どもの葛藤は成長の時期と捉え、気持ちに寄り添い、次につながるよう援助した。また、子どもの挑戦しようとする姿に保育者が先回りせず、見守るよう心掛けた。
	次年度方向性	子どもが様々なこと自ら関わられるように適切な距離感で見守り、生きる力を育てる。一人ひとりの発達や集団の育ちの状況に応じて、多様な生活体験、自然体験、異年齢交流など、具体的に保育を構想し実践する。

### 〈7〉「食を営む力」を育む保育の実践

1	計画・ねらい	生活、遊びの中で食への意欲を高める。
	実践結果	毎日の戸外活動で体を動かし、給食を楽しみに帰園するという流れの中で子どもが空腹感を感じられるようにした。野菜の下処理も定着し、自分で食べる食材の皮むき、種取り、野菜ちぎりなどに意欲的に取り組む子どもの姿が見られた。畑で育てた野菜をすぐに調理し、食べることで苦手な野菜にも手を伸ばす様子もあった。
	次年度方向性	十分な活動時間の確保と子どもが参加したくなるような体験活動の提供を実施し、引き続き、子どもの食欲を育てていく。
2	計画・ねらい	生き物の生死、食の循環に触れて食べることの大切さを知る。
	実践結果	戸外活動の中で、生き物に触れ、生死に出会ってきた。また、鯖を捌いて食べる活動において、調理される前の魚を切り開き、焼いて、食べるまでを体験することができた。

	次年度方向性	畑仕事と食育活動を連動させ、労働と食、循環について伝えていく。命をいただくこと、美味しく食べることを子どもと一緒に食事をする中で感じ取れるようにしていく。
--	--------	---

## 2. 施設運営

### 〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
年度前半： 4~9月	51人	69人	67人	187人
年度後半： 10~3月	54人	72人	69人	195人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	70 人	62 人	55 人	68 人	47 人	47 人	39 人	69 人	57 人	36 人	39 人	45 人	634人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	3 人	3 人	2 人	3 人	9 人	4 人	2 人	7 人	5 人	38人

（解説）18時以降の延長保育利用者数とする。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

### 〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

### 〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
	再雇用スタッフ	0人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人		
パート スタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	0人	事務	0人
	用務	0人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人
	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人				

## 3. 運営報告

### 〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育内容の充実における討議
給食運営会議	月1回	食育会議に基づく食育活動、離乳食・アレルギー等の共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園における事故事例に基づいた討議
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて
係会議、クラス会議	随時	保育内容の検討、子どもの発達について

### 〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年11回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

### 〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健衛生管理、安全管理、感染症等の呼びかけ
安全対策係	ヒヤリハット、インシデントの分析、事故防止、危機管理
防火管理者	消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み (避難訓練等の立案、実行、反省等を含む)
食品衛生管理係	食品の安全に対する管理
畑係	年間畑計画の遂行や畑仕事の確認、整備、管理
備品係	備品点検と発注、補充

### 〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
保護者連携係	どろんこ祭りをはじめとする保護者参加行事において、保護者と共同的に準備、進行を行う
地域連携係	青空保育、子育て支援等の地域に向けた対外的な広報を行う



## 4. 保育支援

### 〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外活動、畑仕事、様々な体験行事と食育活動に、園だからこそできる貴重な体験と評価をいただく。</li> <li>・ お迎え対応や玄関掲示のポートフォリオ、製作作品の展示等で保護者や地域の方に園での様子や子どもの育ちを見えるようにしたことで、園での活動や保育内容にご理解をいただくことができた。</li> <li>・ 個別面談を実施し、保護者の気持ちに寄り添い、共に子育てする姿勢を大切に支援した。</li> </ul>
保育参加	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計34名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での悩み（食事、歯ブラシ、睡眠、入浴、トイレトレーニング、イヤイヤ期等）について</li> <li>・ 子どもの成長を共有</li> </ul>
運営委員会	運営委員会を6月23日と11月24日に朝霞台ルームにて実施し、参加した保護者3名 詳細は議事録に記載

### 〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・ 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

### 〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食事の時間を「楽しい」「おいしい」「嬉しい」時間とする。
	実践結果	保育者が一緒に食事をとることで楽しい、おいしい、嬉しい時間の共感が十分にできるように配慮した。テーブルの配置を見直し、自分で盛り付けができるような環境設定を実施。
	次年度方向性	食事環境における丁寧な関わりを実施する。子どもが自分で盛り付けができるように動線の確保をしていく。また、盛り付けを通して量の認識や食事の姿勢などを毎日の食事の中で伝えていく。
2	計画・ねらい	家庭との連携を図り、食を営む力の基礎を作る。
	実践結果	個別面談の実施、朝食アンケートの実施から、家庭の様子を把握することに努めた。戸外活動を十分にいき、空腹感を感じ、食べる喜びへと繋がるように登園時間の協力を各家庭へお願いしたり、長距離散歩を実施したり

		した。
	次年度方向性	個別面談から家庭の背景を理解し、子どもの心と体の健康を育む。食育活動の取り組みをタイムラインやお便り、ポートフォリオを通して保護者へ伝える。
3	計画・ねらい	継続して畑仕事や食育活動に取り組み、食の循環に触れる。
	実践結果	野菜の下処理を継続して行うことができた。食への興味・関心が深まっている。またその姿を保護者行事で伝えた。鯖を捌いて、焼いて、食べることで食の循環に触れる機会を持つことができた。
	次年度方向性	日々の保育の中で、野菜や肉を育てる人、食材を運んでくれる人、調理する人など多くの人に支えられ食事ができていることを伝え、感謝の気持ちで食事をいただけるようにする。食卓に並ぶ肉や魚について知り、食の循環について学ぶ。

#### 〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日／12月6日に実施
歯科検診	6月13日に朝霞台ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月と1月に歯磨き指導を実施</li> <li>・ 6月に手洗いと手指消毒指導を実施</li> </ul>
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月10月にインフルエンザ感染症、園児9名・スタッフ4名蔓延し、自治体へ報告</li> <li>・ 11月にアデノウィルス、園児1名感染報告有り。11月10日に終息</li> </ul>
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、11月29日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・ 本日時点で、在籍スタッフ15名のうち、14名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月30日に三原どろんこ保育園にて救命講習を柳あすか、石田ひとみ、篠沢恵、高橋勇人、山下琢冬、千葉早苗、計6名が新たに受講し習得済み</li> <li>・本日時点で、在籍スタッフ15名のうち、15名が使用可能</li> </ul>
その他保健に関する取組	感染症に対するの掲示とタイムラインによる発信。爪のチェックの実施。新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

### 〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月3日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月28日、12月6日 歯科健診 各年1回/6月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

## 〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	五感への働きかけを意識した室内のゾーン設定を行う。
	実践結果	室内のゾーン確立を目指し、日々、見直しと改善を繰り返してきた。棚や玩具の選定等は子どもの姿に合わせて、配置をするよう工夫した。主活動は戸外遊びになるが、室内での活動時間も確保し、五感を使った表現遊びを実施した。
	次年度方向性	子ども自らが様々なものにいつでも主体的に関われる環境、経験を選び取れる環境を用意する。
2	計画・ねらい	戸外でものびのびと安全に探索活動を楽しめる活動を提供する。
	実践結果	戸外活動開始前には必ず、ゴミ拾い、危険物や破損箇所の確認等を実施し、子どもが安全に遊べるように配慮した。放置自転車や折れた木、公園設備の不具合等を発見した時は、自治体に報告し、修繕や対処してもらい、地域の方も安心して使える環境を整えるよう心掛けた。長距離散歩では、歩くことを楽しめるような工夫をし、少しずつだが着実に子ども達の歩ける距離を延ばしてきた。
	次年度方向性	子どもの意志を尊重し、自分たちで経験を選択できる環境を整える。
3	計画・ねらい	保育者も環境の一部として自覚ある行動をとる。
	実践結果	コンピテンシーを活用し、プロとしての対応や接遇を意識して取り組んできた。子どもの命を守る為、死角を無くし、保育者の身体の向きや注意が必要な時期や時間帯などについて都度、指導した。
	次年度方向性	物を大切に丁寧に扱う、いつも清潔を心掛けるなど、保育者自身が子どもに背中を見せて伝えていく。

## 〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

## 5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画、避難訓練、避難訓練開催通知、自衛消防訓練通知、救命講習の受講、防災自主点検、危機管理マニュアルの周知、自衛消防組織と安全対策系の設置、緊急地震速報運用を行った。非常持ち出し品、非常備蓄品、防災準備品の点検の実施。
---	------	---

2	実践結果	故防止チェック及び設備点検チェックの実施、AED の点検と訓練、安全教育、SIDS 防止策、与薬ミス防止策の徹底を実施。
3	実践結果	不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を実施。
4	実践結果	光化学スモッグの知識を身につけ、職員全員が自治体の「光化学スモッグ注意報発令メール配信システム」に登録し、注意報発令の把握を行った。

## 6. 実習生・中高生の受入

### 〈1〉今年度の振返り

今年度受入なし

### 〈2〉実習生の受入

今年度受入なし

### 〈3〉中高生の受入

今年度受入なし

## 7. スタッフ研修

### 〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 14名	19日 14名	16日 14名	21日 14名	18日 14名	15日 14名	20日 14名	17日 14名	15日 14名	19日 15名	27日 15名	21日 15名
園内研修	21日 13名	19日 13名	16日 13名	21日 13名	18日 13名	15日 13名	20日 13名	17日 13名	15日 14名	19日 14名	16日 14名	21日 14名

### 〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
11月10～11日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無

1月26～27日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）	1名	無
2月15、22日	埼玉県主催	キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	1名	無
3月8～9日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	無

### 〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	出席者なし。											
デモンクインターンシップ	今年度実施。該当者なし											

### 〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

## 8. 地域交流

### 〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

計画的に保育の中に地域交流を盛り込むことができた。散歩の道中に通りかかる店先にいる店員や、公園で出会った地域の家庭との交流等、日常の中での交流も昨年度に引き続き行った。

## 〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：弁財公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：朝霞台駅、北朝霞駅、朝霞台駅前交番、浜崎消防署、セブンイレブン、100円ローソン、花屋、東武ストア、サミット、マツモトキヨシ等
世代間交流	8月10日にメリー★ポピンス朝霞台ルームにてボディペインティングを実施
異年齢交流	11月22日に弁財公園にて近隣園交流を実施

## 9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

### 〈1〉今年度の振り返り

該当なし

### 〈2〉具体的な連携

該当なし

## 10. 要支援児

### 〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

園と家庭、関係機関からの情報共有をもとに毎月の計画を作成した。必要に応じてケース会議以外の場でも支援計画を振り返り、全職員が要支援児の情報を把握できるよう細かく共有できる機会を設けた。

### 〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：13～14名

毎月の個別計画を振り返り、保育園、家庭、関係機関からの各共有をもとに次月の支援計画を作成する。

### 〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

個別の計画と自治体からの巡回相談記録等を活用し、進級先の園と情報共有をした。また、進級先の施設長、スタッフに来訪頂き、園での様子を実際に見てもらおう機会を設けた。保護者も進級先への見学と面談を実施し、進級に向けて環境を整えている。

## 11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	4名	4名	33名	0名	0名	12名	6名	2名	2名	4名	4名	71名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	月2回 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	月1回 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：弁財公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	12名	6名	2名	0名	0名	0名	20名

## 12. 園運営の向上

### 〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

### 〈2〉園による自己評価の実施

2023年8月21日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：：施設長、主任、調理師、内部監査リーダー



### 〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

前年度に比べ、NPS スコアが上昇したことは大きな成果となっている。保育内容、清掃、保護者対応等の面において、丁寧に対応することを心掛け、スタッフ全員で取り組んできたことで、園全体のチーム力向上にも繋がった。一方、情報共有の面が課題として残っている。細やかな情報共有と全体周知の徹底を次年度も引き続き取り組み、より良い園運営を実施していく。

## 13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

### 〈1〉報告すべきご意見

特になし

### 〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

特になし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ朝霞台ルーム 施設長 柳 あすか